



ウナギを飼っているが、えさは何がいいの

ウナギは肉食

ウナギは、水田や池や川などの、水底の砂やどろの中にすんでいます。昼間は、穴の中などにかくれていて、夜になると出てきて、小魚、カニ、エビ、水生こん虫などを食べます。

ウナギを飼うときのえさは、ミミズや小魚を、丸ごと水に落としてやります。タニシやアサリなどのカイは、殻から身はずし、大きいものは、きざんで小さくしてあたえましょう。大きい魚の切り身なども、小さく切ってからあたえます。1日にあたえるえさの量は、ウナギが一度に食べる量、ウナギの体重の50分の1ぐらいと考えてください。えさの食べぐあいを見て、えさが残るときは多すぎたのですから、あたえる量を減らします。できるだけ、えさが残らないようにし、残ったものは、すぐ取り出しましょう。

寒い冬になると、ウナギは冬眠状態になり、えさを食べなくなります。こんなときは、むりにあたえなくてもよいのです。暖かくなれば、元気に食べはじめます。

水そうには、かくれ家を入れてやる

ウナギを飼う水そうは、できるだけ大きめのものを使い、直径が2～3センチメートルのプラスチックの管を、かくれ家がわりに入れてやります。（監修・安部 義孝）

